

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語指導者養成】

受託団体名 IWC国際市民の会

1. 事業の趣旨・目的

退職教職員を対象とし、教職員の経験を生かせる日本語教師として養成し、当会の小中学校の外国籍児童・生徒に対する日本語「取り出し教育」において、活動するとともに、各教師が地元における日本語教育の発展にも寄与できるよう指導する。

2. 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
9月2日	ホール「悠」	伊藤美里 志村三喜子 松村恵巳 仁村議子 草薙 愛 角田富美子 樋口恵菜	1. 講座名確定 2. 運営委員会委員について 3. 受講者募集方法 4. 講座カリキュラム案	1. 文化庁からの助成確定を受け、講座名を「文化庁委託退職教職員の日本語教師養成入門講座」とし、略称を「文化庁委託退職教職員講座」とする。 2. 鈴木恵理子委員については、暫時保留とし、内部メンバーとして樋口先生を迎え入れる。 3. 品川区教育委員会からの各学校向け連絡便へのチラシ配布、品川区すまいるねっと、IWCホームページ掲載のほか「IWCNEWS LETTER」にもお知らせを掲載する。そのほか大田区退職者教職員協会へのチラシ配布 4. 全20回とし、9月2日開講、週2回(月・金)で行う。詳

				細は追って検討する。
9月7日	ホール「悠」	伊藤美里 志村三喜子 松村恵巳 仁村議子 草薙 愛 角田富美子 樋口恵菜	1. カリキュラムについて 2. 各講義担当講師決定 3. 日報作成の件 4. 会計処理について 5. 次回運営委員会について	1. 前回の運営委員会後、伊藤・松村・志村運営委員で作成した、概論・文法事項・実習の3分野のアウトラインを了承。 2. 概論については伊藤美里理事長、草薙 愛、松村恵巳ほか数名、文法事項については志村三喜子、実習および教案作成については角田富美子が担当する。 3. 各講義終了後は日報に必要事項を記録する。各講義配布資料は事務局でコピーを作成し、一部保管する。 4. 必要経費などの処理は事務局が行う。 5・次回は講座カリキュラムの進め方などについて講師全員の参加をよびかけ、拡大運営委員会とする。
10月17日	ホール「悠」	伊藤美里 志村三喜子 松村恵巳 仁村議子 草薙 愛 角田富美子 樋口恵菜 馬来国弼 滝沢美紀子	1. 講座カリキュラムについて の中間報告および今後の進め方 2. 受講生紹介 3. 事務連絡	1. (1)10/16 までに実施した講義内容の報告 (2)今後の進め方 角田講師より、「教案の作り方」について、「にほんごをまなぼう」の2課をベースにする予定であること、馬来講師より、単に理科の教授法を扱うのではなく、日本語指導の観点を加味しての指導法を扱う予定であること、滝沢講師からは、「にほんごをまなぼう」の中から三つくらいのテーマを選び、テーマに沿った教具・教材の作り方、

				使い方について講義する旨報告があった。 (3)「IWC講師を囲んで」お呼び修了式に出席依頼する先生方について 2. 受講生は大田区退職教職員協会からチラシを得て参加した人が多かった。 3. 受講生の修了のめやすを 70 パーセント以上の出席およびDVD受講を行うなどのことを確認。
2012 年 2 月 1 日	ホール「悠」	伊藤美里 志村三喜子 松村恵巳 仁村議子 草薙 愛 角田富美子 樋口恵菜 滝沢美紀子	1. 今回の講座をふりかえて 2. 受講者募集について 3. JSL I で使用する教材について 4. 事務処理について	1. 各講座担当者より、講座内容をふりかえて、評価点と今後の改正点などを出しあい、質疑をし、次回以降のカリキュラムの立て方などを確認。 2. 今後の募集のありかたについて、さらに検討する。 3. 今後共通に使用する教材開発を体系的に行い、一元的に管理することを提案、今後の協議を待つ。 4. 文化庁提出資料などは事務局と協力して進める。

【写真】



3. 養成講座の内容について

- (1) 講座名 文化庁委託退職教職員日本語教師養成講座
- (2) 開催場所 IWC国際市民の会隣接ミニホール「悠」、山中小学校JSL教室
- (3) 学習目標 日本語教育に必要な基礎知識を身に付け、実習を通じて即戦力となりうる経験を体得する。
- (4) 使用した教材・リソース
「にほんごをまなぼう」(旧文部省)、「日本語初歩」(国際交流基金)および各講師自作のテキスト、レジュメ、教具、教材など
- (5) 受講者の募集方法
- ① 本会のホームページ
 - ② 品川区広報ページ「しながわすまいるねっと」への掲載
 - ③ チラシ広告の配布(別添)
 - ④ 個人による口コミ
- (6) 受講者の総数 8 人
(元職内訳 小学校教諭 5人 中学校教諭 2人 高校教諭 1人)
- (7) 開催時間数(回数) 40 時間 (20 回)
- (8) 参加対象者の要件 退職教職員
- (9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
9月2日 10:00～12:00	講座概要・IWC活動概要 及びJSL・高校支援等の 基本的理念	伊藤美里	8名
9月5日 10:00～12:00	文法1 日本語教育と日 本語学習者の現状、日本 語教育法の変遷	志村三喜子	7名
9月9日 10:00～12:00	文法2 文字指導と発音 指導	志村三喜子	8名
9月12日 10:00～12:00	文法3 直接法による文 法・文型指導、指示代名 詞(こそあど)の導入	志村三喜子	8名
9月16日 10:00～12:00	生徒の家庭環境、母国で の教育、JSLへの受け入 れ方	松村恵巳	8名

9月26日 10:00～12:00	文法4 存在・場所の表現、数及び助数詞の使い方	志村三喜子	8名
9月30日 10:00～12:00	「にほんごをまなぼう」1～3課の50音清音・挨拶・自己紹介ほか復習、第3課実践例	西前悦子	8名
10月3日 13:00～15:00	文法5 形容詞の用法について。形容詞構文、時制、活用	志村三喜子	8名
10月7日 10:00～12:00	異国の言葉を学ぶということ。韓国語について	李文卿	8名
10月14日 10:00～12:00	文法6 動詞の使い方。生活の表現に使う動詞、時制、活用形及び後続句について	志村三喜子	8名
10月17日 10:00～12:00	保護者に対する対応 来日の背景、保護者の悩みと生徒の進学	松村恵巳	6名
10月21日 10:00～12:00	教案の作り方 「にほんごをまなぼう」第6課の実践例	角田富美子	8名
10月24日 10:00～12:00	教具・教材について 「にほんごをまなぼう」の実践例	滝沢美紀子	8名
10月28日 10:00～12:00	文法7 願望・意向の表現、ふつう形の作り方と使い方	志村三喜子	8名
10月31日 10:00～12:00	教科の教え方 (理科について)	馬来国弼	8名

11月4日 10:00～12:00	JSL実習授業	角田富美子	8名
11月7日 10:00～12:00	JSL実習授業	角田富美子	8名
11月11日 10:00～12:00	文化習慣の違い 日本語と外国語の相違点	草薙 愛	7名
11月14日 10:00～12:00	「児童心理学を使ったゲーム」について IWC講師をかこんで	鎌形忠典、 伊藤美里、仁村議子、 草薙 愛、志村三喜子、 角田富美子、滝沢美紀子、 西前悦子	7名
11月18日 10:00～12:00	教師に期待すること 修了式	伊藤美里 草薙 愛、志村三喜子、角 田富美子	8名

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

最終日修了式前に受講生から本講座に関する意見・感想を求めるアンケートを行い、以下のような評価を得、実施の所期の目的は達成されたと考える。

1) 本講座全般に関する意見

ほとんどの受講生は、たまたまチラシを見て、あるいはインターネット検索で本講座を知り受講したのだが、他で得られない貴重な経験をした、各講師には丁寧に指導していただき、日本語教育の基本的なことが把握でき感謝している、本講座主催団体であるIWCの理念、実施しているJSL(日本語指導短期集中教室)をはじめとする日本語教育への取り組みに脱帽したなど、高い評価が得られた。

2) カリキュラムに関する意見

文法については、文法知識は日本語を教える際の基礎であることがよくわかった、自分自身の言語活動を振り返り、いかに不正確な日本語を使っているかを気づかされた、文法はおもしろかったが時間数をもっと多くほしかったなどの意見があった。JSL担当の先生方からの講義については、実践的であり、教具教材の工夫など大変参考になったとの意見があった。その他の先生方の講義についても、いずれも興味深い内容だったという意見が大半を占めた。

3) 実習およびその準備の教案作成について

受講生が一番緊張し、また張り切って取り組んだのが実習であったが、教案作

成にあたって丁寧に添削指導していただいた、直接法による日本語指導と既習語での授業展開について難しさを感じながらも手ごたえがあった、持ち時間 20 分間だが教える内容を細かく組み立てていくことが必要であることがよくわかったなどの感想が寄せられた。一方で、実習ではひとつの課を分担して教えていくことになるので、受講生同士協議しながら教案作成をする時間がほしかったとの意見があった。

4) 受講後について

研修後の人材活用の欄と同内容。

②実施主体からの研修内容結果評価

講座の目標と照らし合わせてみると、外国籍の子供たちの日本語指導に関する情報を総合的に提供することができたほか、初級日本語指導に欠かすことができない基本的な日本語文法知識及びその直接法での教授法のノウハウを提供することができた。教授法に関しては、さらに、実際にJSLで教授にあたっている教師から、その経験を踏まえての指導法の実例、教材作りの要点などの講義も、受講生に歓迎された。実習に関しては、その事前段階にさらに一項目教案・教材を実際に受講者とJSL講師とで協議しながら作る過程の指導を盛り込むと、さらに充実した実習への受講生の自信を生み出せるのではないかと反省点の指摘もあった。しかし、実習生は教師経験者であることから、教案指導の意図をよく踏まえ、実習そのものは、制限時間内におさめる授業展開なども手際よくこなしていた。総じて本講座で提供した知識を各自総合的によく把握できていたと判断される。

③実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

現在のJSL I、IIの場合、区からの要請によって実施している「取り出し」方式による日本語補助事業であるが、毎年夏休み時期に実施している「現職教職員のための外国籍児童生徒指導に関する研修会」において、常に多くの日常的指導上の悩みが提示され、学校現場でしばしば困難に直面する実態がうかがえる。今後もそうした事例に即応できるようなアドバイスを心がけるとともに、場合によっては区へも柔軟な対応を要請するようしていきたい。

(11) 事業の成果

①他事業との連携

JSL I、II と他のIWC主催の日本語教育とは、車の両輪のようなものであり、いずれも在住外国人支援のための事業として重要であるとの認識のもと、教師同士も密接な連携をとりあっている。児童生徒の日本語支援は、児童生徒の級友たちとのコミュニケーション力をつけ、学校生活をよりスムーズに送れるようにするためのもの

のであり、中学卒業後の高校入試支援は、行政の狭間で行く場を失った生徒たちを、試験という難関を乗り越えて進学できるまでにさせる事業であり、また、一般成人の日本語支援は、近隣に在住する外国籍の人々と日本人住民とのコミュニケーションをスムーズにする手助けをすることである。今後とも、この日本語教育事業の推進を通じて多文化共生地域づくりに貢献できるように取り組んでいく。

②研修後の人材活用

さっそくIWCでの活動への参加意思表示のあった受講生が数人いたほか、実際にすでに授業に携わっている受講生もいる。また、直ちにではないが、時期を見てぜひ取り組みたい、自宅近くでの同様な外国籍児童の日本語教育にかかわってきたいとの意欲を述べた受講生もあり、一定の成果が得られた。

(12) 今後の課題

今後も引き続いて本事業により退職教職員の方々の蓄積してきた教育におけるさまざまなノウハウなどを本会の教育に効果的に生かしてもらうこと、そのために、日常の日本語教育現場において、教具・教材の開発及び充実を図ることが大きな課題である。他方、学生数、生徒数はその時の日本の国内事情や国際情勢などの影響を受けやすい。2011年度は、東日本大震災と福島原発事故という未曾有の災害のために多大な影響を受けた。今後、安定的な運営をひきつづき保持していくことをどのように確保していくかも、重要な課題である。

退職された先生方へ

文化庁助成対象講座

= 退職教職員日本語教師養成講座 =

外国から来た子どもたちに日本語を教えてくださいませんか？
当会は長年外国の子どもたちに日本語を教えてきました。
これから外国の子どもたちに教えたい先生方に、そのノウハウを提供するとともに、日本語教育に必要な文法基礎を習得してもらい、かつ外国の子どもたちに日本語を教えるにあたり、日本と外国との風俗習慣の違い等も交えてお話したいと思っています。

日 時：2011年9月2日(金)～11月18日(金)

毎週 月曜日、金曜日 10:00～12:00 (全 20回)

場 所：NPO法人 IWC国際市民の会(ゆーホール)

西大井駅(JR横須賀線、湘南新宿ライン〈普通〉より徒歩5分)

下神明駅(東急大井町線)より徒歩17分

大井町駅下車 バス「#5 西大井行き」8分「伊藤学園前」下車徒歩1分

募集人員：15名程度

講 師：志村 三喜子 元海外技術者研修協会(AOTS)、国際交流基金派遣教師等
現 JSL 講師陣
使用テキスト：国際交流基金「日本語初歩」、文科省「にほんごをまなぼう」に基づく教材
特 典：講座修了後、IWCのJSL I・II(日本語短期集中教室)ボランティア講師として
参加する資格を取得できます。

お問い合わせ・申し込み

NPO法人 IWC国際市民の会

住所：東京都品川区西大井 2-21-6

TEL & FAX：03-3773-4836 (月～土 10:00～17:00)

ホームページ：<http://www.npo-iwc.org/>

Eメール：iwc@npo-iwc.org